

# 旭

印刷を支え加工を活かす

工場本部  
瓜破工場 副工場長

## 山野博之

旭紙株式会社の工場本部、瓜破工場で副工場長を務めている山野博之さん。高校卒業後、自分には何が出来るのかと将来を考えて現場作業員に興味を持ち、希望の条件に合う会社を探していくうち、縁あって1998年(平成10年)に入社。それからというもの、この道一本で黙々と仕事に向き合ってきました。そんな山野さんが内に秘める思いについて聞きました。



— 現在ほどのような仕事をされていますか。

2018年の末に副工場長のポジションに就き、現在は主に11ラインの機械の管理、仕事の進捗管理、そして人員配置などを担当しています。思い描いた通りに仕事が進み、その仕事を無事に終えられた時がもっともやりがいを感じられる瞬間で、そこに仕事の面白みを感じています。

以前は現場での作業が中心でしたが、いつの頃からか現場には入らず管理業務が中心になっていました。副工場長に就任し、仕事内容が変わったことに対する気持ちの変化はありませんでしたが、副工場長という立場に対しては変化がありました。時代に合わせ、旭紙工の状況や部下といった、周囲の状況を気に掛けて仕事をするようになったのです。日頃から、会社と私自身が同じ方向性で進んでいくように確かめながら、仕事に取り組んでいます。

— これまでで、大変だった出来事がありますか。

入社して3、4年が経った頃の話です。夜勤で作業していた時に、体調不良に見舞われました。口にした何かにあたってしまったのかもしれないと思い病院へ行ったところ、診断結果は食中毒でした。点滴を受けたものの、症状は一向に良くならず体調は辛いまま。この状態では帰宅して数日の間安静にしているのが一般的ですが、時代が時代です。当時は人員が足りず、作業を変わってくれる人もいませんでした。仕事を続けざるを得ませんでした。



体力には自信があったのですが、具合の悪い体で我慢して作業したあのかのことは、特に思い出深いですね。

— それは辛かったですね。辞めたいと思ったことはありませんか。

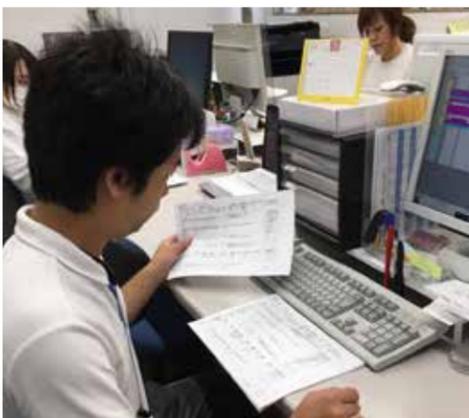
食中毒でも休めなかったときは、不思議と辞めようとは思いませんでしたが、脳裏を「退社」の文字が過ぎった時期はありません。課長を務めていた頃、1週間で5、6件立て続けに不良やクレームが発生しました。正直なところ精神的にこたえましたね。それでも課長として、その一つひとつに対して検査方法の改善や人員配置の見直しなど、再発防止のための対策を練っていききました。その甲斐あって、辛い状況は改善されました。

次々と発生する問題に頭を悩ませて、走り回っても会社を辞める選択をすることなく、乗り越えて今日に至っています。辛い状況にあっても私を支えていたのは、養っていた親の存在です。家族のために、辞めるとい

う選択肢はとりませんでした。結婚して新たに家庭を築いた今では、その存在もまた私を支えてくれています。

— 最後に、今後の展望についてお聞かせください。

今後は社員の教育を中心に力を注いで、部下一人ひとりのスキルアップを図って土台を強化していきたいですね。機械のセッティングをする際には教育係となる社員を一人付けるなど、社員にとって学びを得られる人員配置を考えて、取り組んでいく予定です。



### 企業情報

- ◆ 創立年：1983年1月
- ※ 創業：1963年
- ◆ 年商：15億円
- ◆ 従業員数：200人

※ 2018年12月実績

「皆さんに自慢できる」とはないし、どうして私が副工場長に就任できたのかよくわかりません」と謙遜する山野さんですが、周囲を思いやり確実に仕事に取り組んでいく、ぶれることのない芯を持った存在は旭紙工にとって必要不可欠。山野さんは、これからも旭紙工のさらなる発展に貢献していくと決意を述べています。

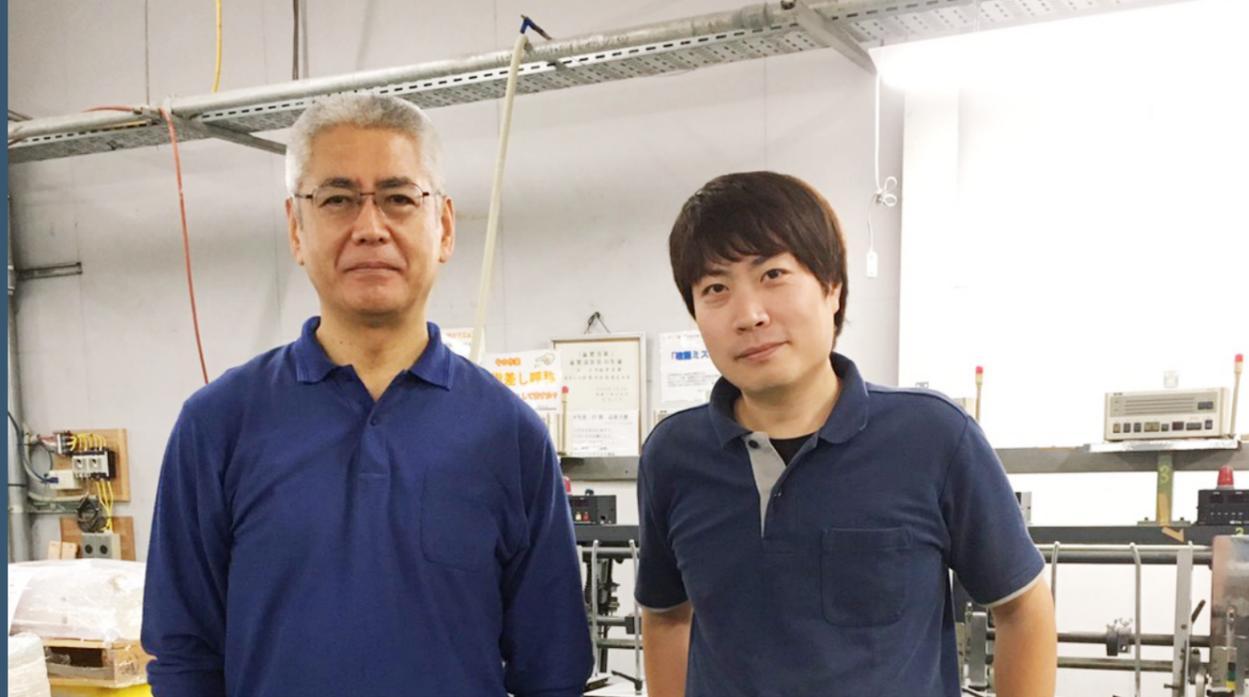
仕事をする上で、自分のことは二の次ですね。日曜出勤が多い部門なので、各社員の休みの状況は特に気に掛けて、部下を第一に考えています。

# 部署紹介 技術開発部門編



私が  
紹介します

技術開発部門 課長  
中田 圭一さん



現場での仕事を機械で支える技術開発部門。  
今回はその仕事内容や今後の目標について伺いました！

## 技術開発部門の仕事

機械を実際に使用している現場からの声をもとに、その開発を行っています。具体的には、生産性を上げるためにこうしてほしい、検査装置をつけてほしいなどの意見に応えています。また、もともと私は現場で中綴りの作業をしていたので、その時に感じたことを活かして機械の改善をすることもあります。

もう1つの主な業務が、現場の機械のメンテナンスや修理です。基本的には、現場内で機械のメンテナンスや修理をしてもらうことになっているのですが、どうしても生産することが優先なので、追いついていないのが現状です。そのため、機械が壊れたときに現場内で修理ができなかったものについては、技術開発部門がカバーしています。多い日には、10件以上の依頼が来ます。技術開発部門には私と常務の2人しかいないのですが、分担して基本的に1人で修理やメンテナンスを行っています。

## やりがい

修理をしたときや、新しい装置を開発したときに、現場からやりやすくなったという声をいただくと、非常にやりがいを感じますね。そういった言葉を聞けるのは非常に嬉しいことだなと思います。

また、生産性に関しても、数字として効率が上がったことがはっきりと分かるようになると、より一層精が出ますね。



## 思い出深いエピソード

工場移転の際に、約1年をかけて機械を移動させたことですね。機械は大きくてそのまま運べないものがほとんどなので、丁寧に分解する必要がありました。分解し、移動した後、組み直し、機械のバランスを確認する作業を行います。床によって機械のバランスも変わってくるので、傾きや高さの一つひとつ調整しました。また、機械は電気だけではなくエアの力も使うので、エアの配管が機械のそばに来るように、配置にも気を付けました。

さらにこだわったのは、実際に働く方々が少しでも作業しやすい環境をつくることです。検品がしやすいようにそばにライトを置いたり、機械の高さを変えたり、蛍光灯の配置を工夫したりしました。

また、機械を移動させている間も現場を止めることはできないため、生産性を落とさないように、機械を移動させたらすぐに使えるようにしていました。

すべての作業を2人で行わないといけなかったため、当時はかなり追われていましたね。しかし、忙しい中でも気をつけていたのは、安全第一で事故がないようにすることです。集中力を使う作業でもあったので、こまめに休憩を取るようになっていました。この経験を通して、休むときとやるときのメリハリの大切さを学びました。



## 今後の目標

今現在、部門に2人しかいないので、新しい人材を入れて、育てていきたいです。これは技術開発部門として早急に対応しなくてはならない課題でもありますね。

また、修理やメンテナンスの大切さを現場にもっと伝え、意識を高めていきたいです。現在、技術開発部門の業務は修理がほとんどになってしまっており、開発に多くの時間を割くことが難しくなっています。この状況を是正するために、ちょっとした修理やメンテナンスは現場で行ってもらえるよう指導することに力を入れていきたいです。各現場がメンテナンスにより力を入れ、機械の故障が減れば、結果としてさらなる修理費用の削減になるのではないかと期待しています。

### 技術開発部門

### 紹介したい人

#### 河井 健さん



技術開発部門の部長兼常務で、私の師匠のような人です。主に、社内カメラの検査装置を開発しています。今はもうなくなってしまっているメーカーの機械の修理なども、色々調べながらやってくれています。

また、型抜きという工程も河井常務が担当しています。型抜きとは、お客様のご希望に合わせて、本をハートや車などの形に切り抜く作業です。河井常務は、お客様からいただいた希望の形のデータを処理して、型を作ったり、設計をしたりしています。

私は普段から本当にお世話になっており、機械に関することはもちろん、人間的な部分についてもたくさん教えていただきました。会社を運営していくにあたっての考え方や、もの見方など、いつもためになるアドバイスをいただいています。



# Luxe Pack 2019 ヨーロッパの旅紀行

9月に開催されたLuxe Pack 2019展示会への参加のためにヨーロッパへ行ってまいりました!そのヨーロッパツアーの様子をお届けいたします!

## 旅へ

自宅を出てから24時間。コート・ダジュール上空、機内窓側には突然、古い赤い屋根と海岸線に広がる青い海、まさに色彩の楽園が広がります。モナコで開催されたLuxe Pack 2019展示会に参加させていただき事になりヨーロッパを訪れました。関西国際空港からドバイを経由しニース空港に到着した私たちは、橋野社長と株式会社ペーパークラフトイトウ・伊藤社長に出迎えていただき、ヨーロッパレンタカーの旅が始まりました。



空からのコート・ダジュール

## ニース編

ニースではResidhome Nice Promenadeというキッチン付きのレジデンスに宿泊です。旅慣れた橋野社長と伊藤社長の提案で、自炊しながらの旅です。出発前にお米・海苔・梅干しなどを買って揃え、橋野社長には鍋・炊飯器までも持参していただき、この旅のほとんどの朝食は橋野社長の手作りで、毎朝お米をいただく幸せを噛み締めることができました。フランスは物価がとても高く、食料調達のため、モナコから1時間程のイタリアへ向かう途中、国境で仁王立ちし機関銃を肩から下げた軍隊にパスポート提示を求められたのですが、パスポートをホテルに置いていた為橋野社長の勢いも及ばず国境越えは諦めました……。と、見せかけて……。別ルート的高速道路を使って無事イタリア国境を越え、食料調達もできたのです。ニースの海岸沿いには、7kmに渡るブロムナードデザングレと呼ばれる散歩道があり、ヤシの木や南国の花が咲き誇り、真っ青な海の色との調和が言葉では表せないほどの美しさです。エズの村には断崖絶壁の崖にそびえる古城、それはまさに天空の城でした。豪華なクルーザーが停泊するエルキュール港を眺める景色は壮大で、F1モナコGPのスタート地点も望むことができます。他にもモナコ大公宮殿やグレース・ケリー妃が眠るモナコ大聖堂などを巡りました。2日間に渡る展示会では、ヨーロッパと日本のビジネスの手法の違いに驚き、またそれらを日本に取り入れる事の難しさを知り、それでもできることがあると確信し、今後の業務に繋がるヒントを得ることができました。また、偶然この展示会に来られていた他社社長ご夫妻とも夕食を共にするという貴重な体験もさせていただきました。モナコ、ニースの3日間は、とてもラグジュアリーでリッチな気分を味わい、次は700km先のバルセロナへ向かいます。



エルキュール港



モナコ大聖堂



モナコ大公宮殿

## バルセロナ編

午後8時過ぎバルセロナに到着です。古い街並みの中に、モダンな建物でひときわ目立っているのが私たちが宿泊したBonavista Apartments Virreinaです。今回の旅の中で一番素敵なレジデンスでした。とても綺麗で、キッチンはもちろん洗濯機も部屋に備わっています。翌日はサグラダファミリア、カンブ・ノウスタジアムなどのバルセロナ観光後は、私が一番楽しみにしていたフラメンコショー鑑賞です。フラメンコと言うと「愛」をイメージする方が多いと思います。諸説ありますが、迫害されたジプシーが流れ着いた先スペイン・アンダルシア地方の芸術でジプシーの貧しい生活や不幸な運命を嘆く悲しみの歌や踊りが多いそうです。緊迫した感情を表現する姿は、一瞬でハートを打ち抜かれた気分でした。バルセロナで3日間を過ごした後はいよいよ、1300km離れたフランス北西部サン・マロ湾上に浮かぶ修道院モン・サン・ミッシェルへと向かいます。



サグラダ・ファミリア(左)とカンブ・ノウスタジアム(右)

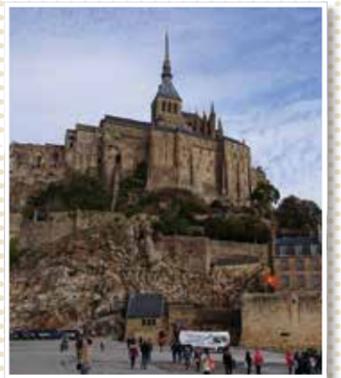


エル・コルドベスでフラメンコショー(上)と、ショー会場のディナー



## モン・サン・ミッシェル編

バルセロナを朝6時過ぎに出発しモン・サン・ミッシェル近くのホテルに到着したのは夕方6時頃でした。12時間運転を続けていただいた橋野社長、助手席で完璧なナビゲートをしていただいた伊藤社長には感謝でいっぱい。今回、初めてレジデンスではなくibis Pontorson Baie du mont Saint-Michelというホテルに宿泊します。ホテルチェックイン後はしっかり防寒対策をして夜のモン・サン・ミッシェルを見に行きました。モン・サン・ミッシェルは、8世紀キリスト教聖堂として建設され、14世紀の百年戦争では城塞となり、18世紀のフランス革命時は監獄として使用されていました。その後フランスの文豪たちがその美しさを賞賛したことをきっかけに、修道院としての役割を取戻したそうで、現在はフランスの世界遺産となっています。翌日昼のモン・サン・ミッシェルも見に行きたのですが、激動の歴史を積み重ね、増改築を繰り返し、その独特の美しさに魅了されたのは言うまでもありません。この後370km先のパリに移動です。



圧巻のモン・サン・ミッシェル

## パリ編

パリの道路交通状態はなかなか荒く、橋野社長しかなら運転できないと感じながらサイドに凱旋門を目にした瞬間、感動の渦に包まれました。凱旋門は戦勝記念碑として建設され、フランス語では「アルク・ド・トリヨンフ(戦勝のアーチ)」と言うそうです。そして、マロニエ並木のシャンゼリゼ通り、フランス革命100周年を記念して建造されたエッフェル塔は「鉄の刺繍」と形容されるほど、その美しさは圧巻です。夜のパリを巡り、パリでの宿泊はCitadines La Defense Parisというレジデンスです。翌日のディズニーランド・パリではこの旅で初めての雨でした。6人そろってディズニーランド・パリのロゴ入りポンチョを着用し、パレードを見ることができました。パリのディズニーランドはあまりサービス精神がないとよく耳にしていたのですが、そんなことはありません。夢の国ディズニーランドは、時間を忘れてしまうくらいとても素敵で時を与えてくれました。夜はムラン・ルージュのショーです。ドレスコードがあり、お洒落をして出掛けます。シンボルの赤い風車がノスタルジックな雰囲気を漂わせ、フレンチ・カンカンがフィナーレを飾る、とても華麗なナイトショーでした。翌日はルーブル美術館を訪れました。目的はモナ・リザ。ルネサンス期のイタリアの画家レオナルド・ダ・ヴィンチによって描かれた人物画です。モナはイタリア語で「婦人」、フランスやイタリアでは描かれている人物の旦那様の名をとって「ラ・ジョコンダ」(ジョコンダ婦人)と呼ばれています。モナ・リザ専用入口が作られていて、それはそれはかなりの混雑でしたが待ちに待った甲斐がありました。角度によって見え方が変わり、どこからでも微笑む姿はとても魅惑的でした。そして最後の夜です。シャンゼリゼ通りで最後の晩餐をした後は、リドのショーです。煌びやかなシャンデリア、ゴールドに包まれたロゴ、一つ一つが宝石のように素晴らしいナイトショーでした。パリでは4日間を過ごし、とうとうヨーロッパの旅も終わりです。シャルル・ド・ゴール空港で橋野社長と伊藤社長と別れ、私たちはドバイ経由で大阪へ帰ります。



凱旋門



エッフェル塔



ディズニーランド・パリ



ムラン・ルージュ鑑賞



ルーブル美術館にてミケランジェロ(中央)とモナリザ(右)



リドショー鑑賞

## ドバイ編～帰路へ

ドバイでのトランジットが7時間あったので入国してみました。タクシーの運転手さんにトランジットで少しか夜夜のドバイを案内してもらえたら、料金はどれくらいかかるか確認し、何か所か夜景スポットを案内してもらいました。とても親切な方で果てしなくドバイについて語ってくれました。10年前にドバイに移住してきたインドの方で、この10年でドバイがかなり進化したこと、来年のエキスポ2020に向けて新しいアイランドを更に建設していること、セキュリティがしっかりしていてとても安全であること、富裕層が多いこの街は建物も煌びやかでとてもすごい電力を使用していること、全てにおいて余裕があるせいか高速道路は片側5車線ありました。ドバイをすっかり勘違いしていた私は中東の少し怖い場所だと思っていたのですが、信じられないくらい素晴らしい場所でした。世界一の高層ビル、ブルジュ・ハリファ、世界最大の人口島、パーム・ジュメイラ、5つ星の最高級ホテル、ブルジュ・アル・アラブなど、近代的で世界一で溢れているドバイは豪華で魅力的な街でした。ドバイを後に関西国際空港へ。これで11日間の旅は終了です。今回の旅で、橋野社長が本当に素晴らしい方であることを再認識しました。言葉の壁を突き破り、交渉し、確認し、私たちが安全に旅ができるよう常に配慮していただきました。何よりも2800kmに及ぶ長距離を運転し、毎朝栄養満点朝食を用意していただきました。伊藤社長にも完璧なナビをしていただき、アイディアとユーモアいっぱい橋野社長との絶妙なコンビネーションによりいつも温かく私たちを見守っていただきました。本当にありがとうございました。



ブルジュ・アル・アラブホテル



ブルジュ・ハリファ



アトランティス・ザ・パームホテル



ドバイ・マリナー・ウォーク

最後に、旅は本当に素晴らしいです。そして、世界中が進化し続けています。私が前職でいろいろな国を訪れる時は、必ず図書館や本屋さん観光局などへ出向き資料を集めるだけで数日かかりました。でも今は違います。スマホをワンクリックするだけで、世界中の情報を得ることができるのです。小さな空間で過ごす日常を離れ、世界中の人々が集まる場所は全てが魅力的です。それらを肌で感じたり、会話したりすることにより様々な感情が生まれ、多くのことを学ぶでしょう。今回このような素晴らしい体験をさせていただきましたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。